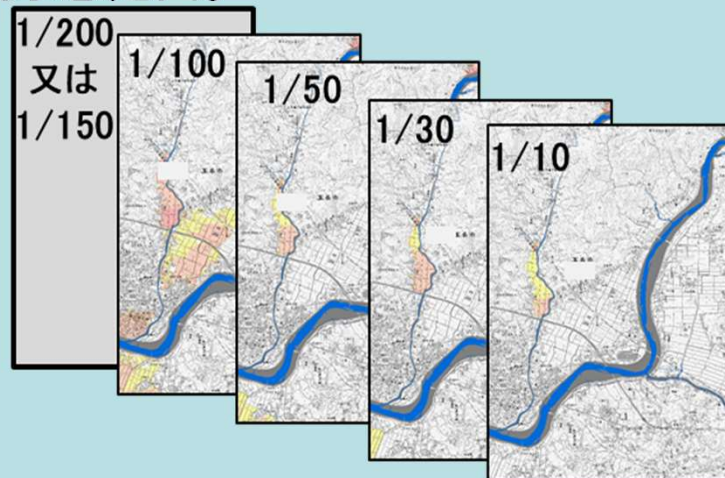


国や都道府県では、これまで水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模降雨を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成し公表しています。

国土交通省では、これに加えて、**土地利用や住まい方の工夫、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検及び企業の立地選択**など、流域治水の取り組みを推進するため、比較的発生頻度が高い降雨規模も含めた複数の降雨規模毎に作成した浸水想定図（「多段階の浸水想定図」）と、それらを重ね合わせて、浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した「水害リスクマップ」を作成・公表。（R5.3）

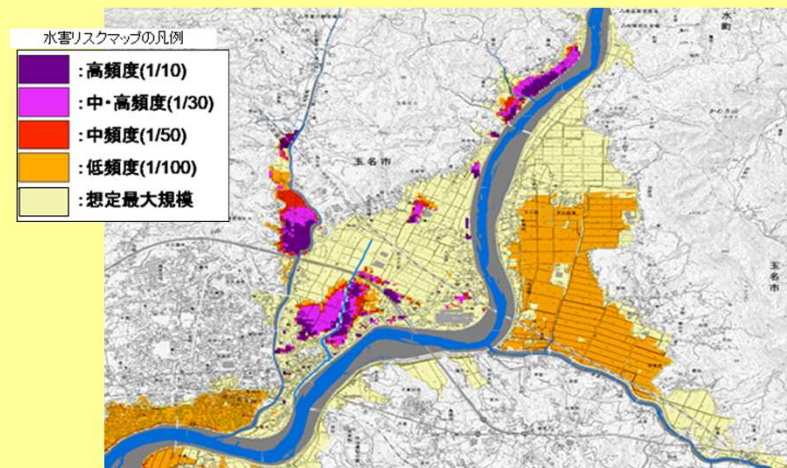
【多段階の浸水想定図】

想定最大規模に加え、高頻度から中頻度で発生する降雨規模毎に（1/10、1/30、1/50、1/100、河川整備の計画規模（1/150又は1/200））に作成した浸水想定図。



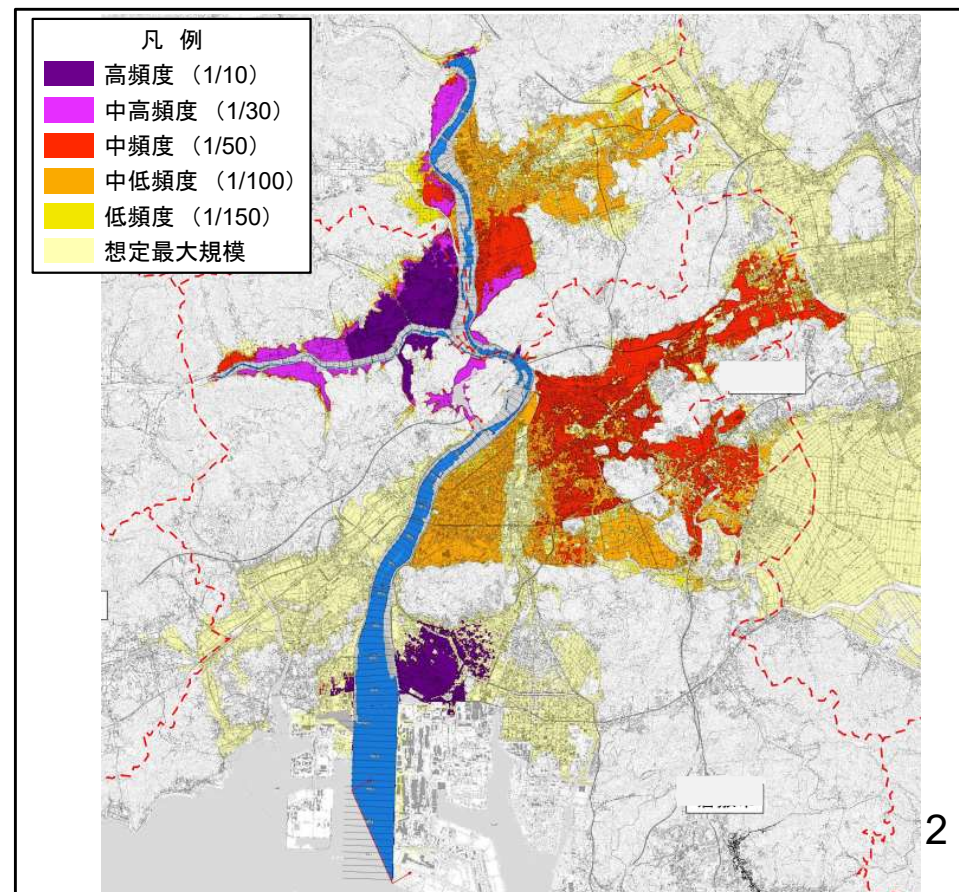
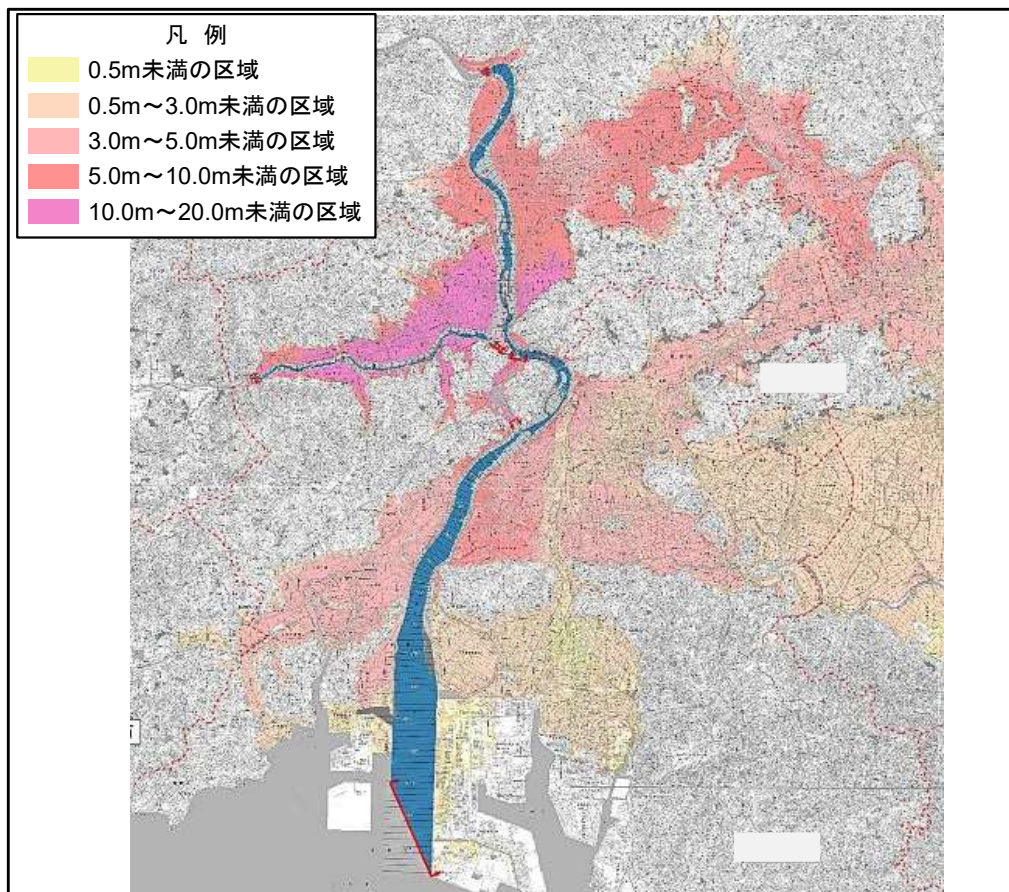
【水害リスクマップ】

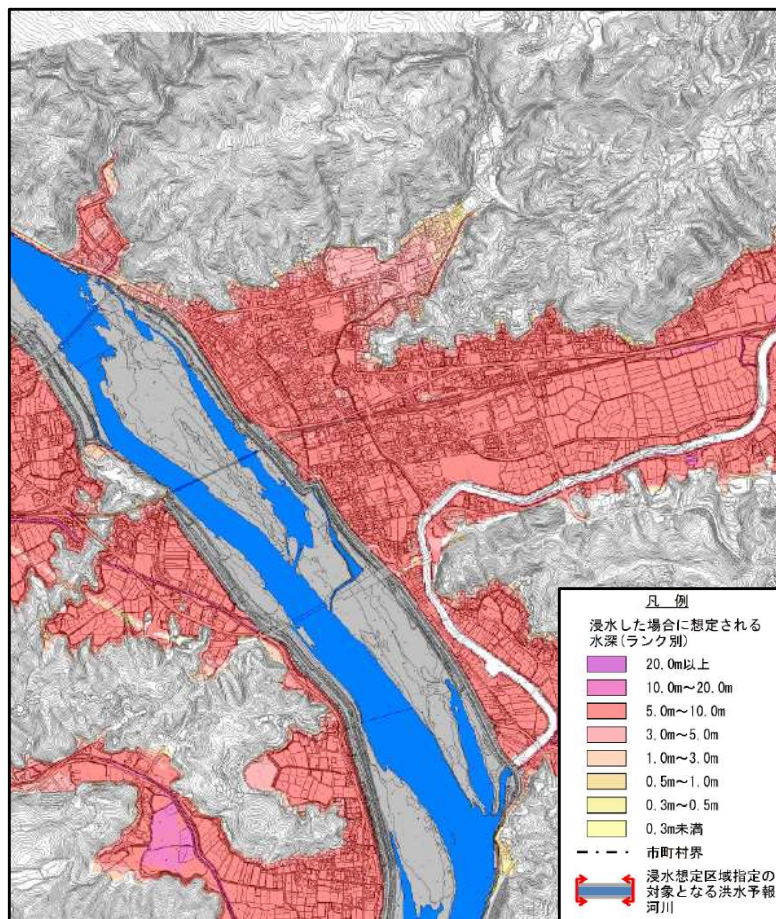
多段階の浸水想定図を用いて、降雨規模毎の浸水範囲を浸水深毎（0.1m以上、0.5m以上（床上浸水）、3m以上（1階居室浸水））に重ね合わせて作成した図面。



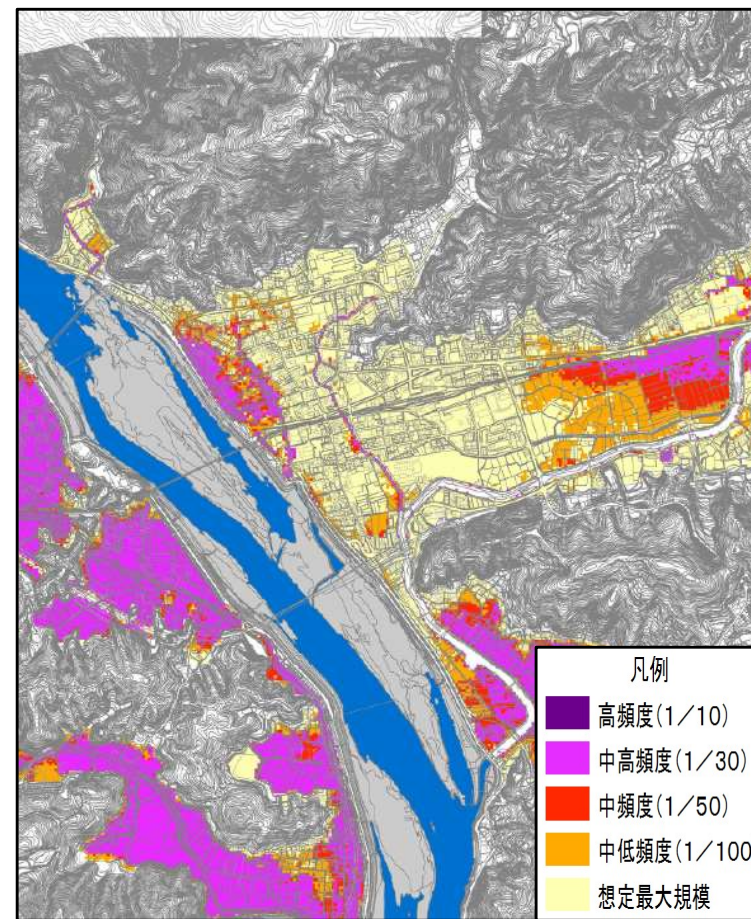
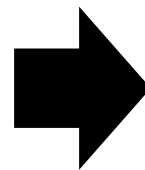
洪水浸水想定区域図と水害リスクマップの違い①

	洪水浸水想定区域図	水害リスクマップ (浸水頻度図)
表す情報	浸水範囲、浸水深 (m)	浸水範囲、浸水頻度 (〇〇年に1度程度)
主な用途	避難行動	防災まちづくり、企業立地選択等
降雨条件	想定される最大規模の降雨	発生頻度の異なる降雨
河道の時点	現在	現在及び河川整備後など





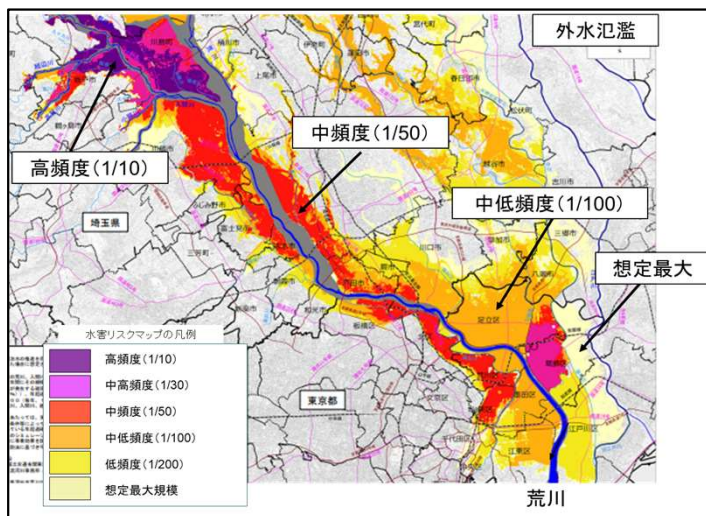
洪水浸水想定区域図
(想定最大規模)



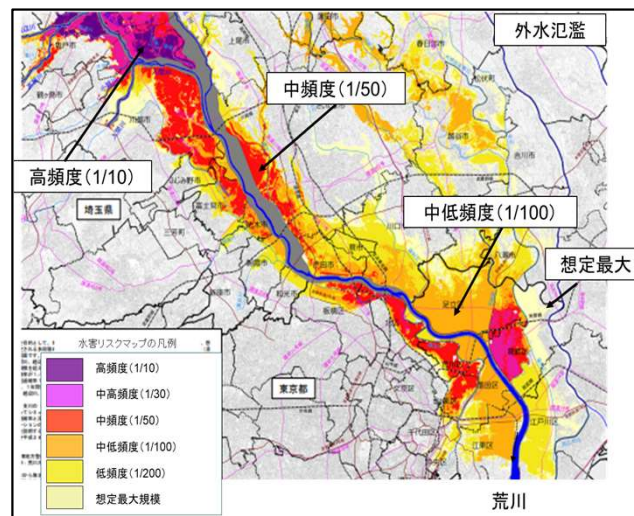
水害リスクマップ
浸水深3m以上(1階居室浸水相当以上)

- 洪水浸水想定区域図は、最悪の事態を想定して命を守るという観点から、避難が必要となる場所と安全な場所を把握することを目的としています。
- 水害リスクマップでは、降雨の発生確率ごとの浸水範囲を表示することで、**中小規模の洪水でも比較的浸水しやすい場所を把握することができます。**

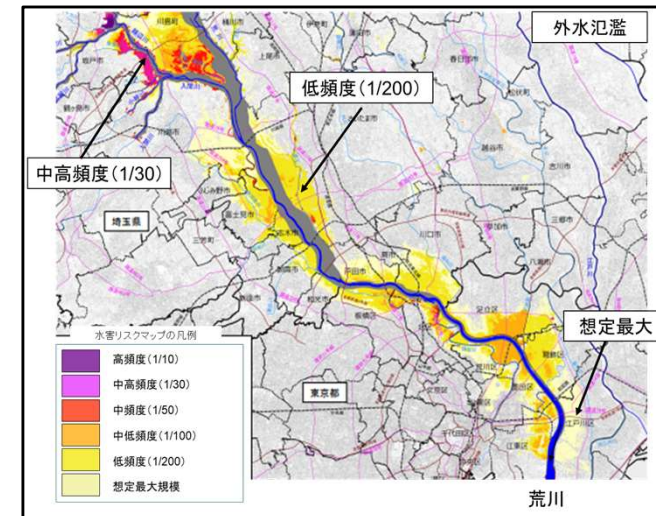
水害リスクマップは浸水深の閾値によって3種類の図が作成される



①浸水する範囲



②浸水深50cm以上
(床上浸水相当以上)



③浸水深3m以上
(1階居室浸水相当以上)

⇒ **【土地利用や住まい方の工夫】**

居住スペースや1階をピロティ構造にするなど、建築構造の参考にするなどの活用が考えられます。

⇒ **【企業立地選択等に利用】**

浸水頻度の高い場所への施設の立地を避けるほか、浸水確率を踏まえて事業継続に必要な資機材を2階以上に移動する、止水壁を設置するといった対策の検討に活用することが考えられます。

⇒ **【水災害リスクを踏まえたまちづくり・避難所設置に利用】**

立地適正化計画における防災指針の検討・作成への活用などが考えられます。

⇒ **【リスクコミュニケーションに利用】**

お住まいや地域の水害リスクを知ってもらい、自分事として防災意識を高めてもらう(逃げ遅れゼロ)ため、自治体や住民とのリスクコミュニケーションツールとして活用することが考えられます。